

寛永12	1635	西様似海辺川の支流で金鉱を発見 幕府により採掘(東金山金鉱)
寛文 9	1669	シャクシャインの戦いにより金山閉鎖
寛政11	1799	様似山道(約7km)完成 エンルムに会所 設置
寛政12	1800	「砂馬荷造船所」設置
享和 2	1802	様似が蝦夷奉行の管下となり、 この年を様似の開基とした
文化 3	1806	等澗院 幕府により建立
文化 8	1811	等澗院護摩堂 竣工
安政 4	1857	様似神社(住吉神社) 建立
明治 2	1869	シャマニ会所 廃止
明治18	1885	等澗院 廃寺
明治30	1897	等澗院 再興
昭和12	1937	日高本線 様似まで全線開通
昭和27	1952	町制施行(村から町になる) アポイ高山植物群落が 国の特別天然記念物に指定される
昭和40	1965	等澗院護摩堂を 町の重要文化財第一号に指定
昭和46	1971	第一回アポイの火まつり開催
昭和50	1975	ヒメチャマダラセセリ(蝶) 国の天然記念物に指定
昭和56	1981	日高山脈襟裳国定公園指定
平成17	2005	等澗院古文書ほか蝦夷三官寺資料 国の重要文化財に指定
平成20	2008	アポイ岳ジオパーク 日本ジオパークに認定



様似町



開 館 昭和41年
日高管内初の郷土館として開館
入 館 料 無料
開館時間 AM10:00~PM4:30
休 館 日 毎週月曜日・年末年始

様似郷土館

SAMANI Folk Museum

〒058-8501 北海道様似郡様似町会所町1番地
TEL・FAX 0146-36-3335
E-mail samanikyoudokan@future.ocn.ne.jp

様似町教育委員会

〒058-8501 北海道様似郡様似町大通1丁目21番地
TEL 0146-36-2521 FAX 0146-36-4210



様似郷土館

SAMANI Folk Museum



北海道様似町



様似山道

「シャマニ会所」や「寺(等澗院)」などの場所が記され、「様似山道」、山道内の「コトニ小休所」なども詳細に描かれています。



シャマニ会所

文久元年
シャマニ絵図
勝田伊賀守様上ル

等澗院古文書は、開祖初代住職秀晩から11世住職徳弁に至るまでの江戸歴代住職が幕府や他寺とのやりとりを記録したもので幕府の公文書や建立の経緯が記されています。



国指定重要文化財(平成17年6月10日)
・住職記13冊・什物帳1冊・霊簿(過去帳)1冊
様似町指定文化財(昭和58年4月12日)
・書府(寺縁通減法通知書)1通



一石一字塔

文化3年(1806)に等澗院初代住職秀晩により、えりも百人浜の海難者供養として建立されました。碑文は秀晩住職の書と伝えられています。

等澗院は、文化3年(1806)東蝦夷地の人心の拠所として、また幕府の権威誇示のため建立され、寺録(官費)によって維持管理され、た寺院でした。明治には「寺録通減法」に伴い維持管理が不能となり廃寺になりましたが、復興を願う信徒の要請もあり再興された北海道の古刹です。



將軍建立の官寺
十萬石格
蝦夷三官寺

等澗院古文書

どうじゅういんこもんじょう



様似会所支配人代理だった矢本藏五郎は、明治政府の依頼で会所廃止後も会所に留まり物資の取引や旅籠屋、徴税なども行いました。その後、会所建物の払い下げを受け幅広く商売を始め、様似の暮らしを支えました。当時、冷遇されていたアイヌの人たちにも温かな態度で接し、全員に苗字をつけてあげると、和人格の取引を実施しました。「矢本家古文書」は、当時の記録と会所の経緯などが記された貴重な文獻で北海道唯一と言われています。

米・味噌は矢本の蔵から、日用品は矢本の店から

矢本家古文書

やもとけこもんじょう

学ば
文獻から



福山(現・松前町)から様似に移住した佐藤家が松前福山城家老・勝田伊賀守に献上するために文久元年(1861)に作られた様似絵図でしたが、献上する機会なく、手元に残された貴重な史料です。

シャマニ会所絵図

かいしよえず

開拓と暮らし

ほろまんえきていしょ
幌満駅通所



北海道独特の駅通制度

江戸時代は「会所」が人馬継立、継立馬の飼育、旅籠屋の業務を担ってきました。様似会所では、婦女子のための山鴛籠まで用意されていました。

「会所」廃止後は「駅通所」と改称され規則と設備を整備し人馬継立、宿泊、郵便の3事業が主な仕事になりました。この制度は明治から昭和初期まで続き、北海道を開拓する上で重要なものでした。



日高国
幌満駅通所

開拓時代の生活用品



開拓時代に実際に使われていた生活用品で、雪深い北国独特のものなど数々あります。



ジンペイ
(スリッパ型のわらじ)

山形地方独特の履物で甚平衡という人が作ったから、その名がついたとか・・・



馬のわらじ

蹄鉄の取替えが不十分だった昔は、馬専用のわらじを用いました。

大正・昭和の暮らし



熊よけラッパ?

熊の出没が多かった開拓時代は、「熊よけ」のためにラッパを吹きながら歩いたとか・・・

木の瘤を利用した手製のお盆や陶器の湯たんぽなどの生活用品、当時一大ブームを起こした小型映画撮影機のパティベビーカーは北海道に現存する3台のうちの1台です。



産業を振り返る

産業資料

北海道の開拓を支えた産業の道具類は、現在も使用されている道具もあれば、使用されなくなり姿を消した道具など様々あります。

そんな懐かしい道具類を展示しています。



林業



漁業



農業

東金山金鉱山

運別(現・海辺川)の支流ポロナイ水源の近くで、寛永12年(1635)に金が発見され、寛文9年(1669)に起きたシャクシャインの乱まで幕府による採掘が続けられました。江戸時代の北海道では、鉱山を掘り砂金を採取する「山金」は珍しく、記録では様似町と今金町の2箇所とされています。鉱石を粉碎したとされる鉱山臼が発見されています。



山金(やまきん)の証拠!?
鉱石を粉碎した鉱山臼

しおがませいえんしょ 塩釜製塩所



北海道での製塩は、寛政12年(1800)頃に幕府によりはじめられました。函館奉行所の記録では、様似と根室の2箇所が最初で、大釜で海水を煮立てて塩を造り、同時に豆腐も造られていたと言います。今でも「塩釜」は、地名として残っています。

北海道で2箇所
だけの製塩所!
大釜の破片

アイヌ民族の歴史

儀式に使用した道具や刀、婦人の首飾りなどを展示しています。



黒裂置文衣(チカルカルベ)

昭和42年に科木の繊維を使い、1年がかりで織ったものです。



考古学について

塩釜、観音山、エンルム岬などから出土したもので、中野式、縄文式土器や石斧、鎌などが数多くあります。その他に、獣骨やクジラの骨も出土しています。



色々な
アンモナイト
も展示して
います。

教育の歴史



明治から大正まで使われていた尋常小学校の教科書や吊鐘・振鐘など、その他に大正9年(1920)に実施された第1回国勢調査の記録と記念メダルが展示してあります。

戦時中の暮らし



召集令状(赤紙)や戦地からの軍事郵便、着用していた将校用背負鞆や軍服、外套などが当時を偲ばせます。

名所・由来を知る

さまにさんどう
様似山道



山道の名所?様似で
北海道初の官営道路
大きさも歴史も1番の木?

寛政年間になると外国船が交易を求め北海道に次々と姿を現わすようになり、危機を感じた幕府は蝦夷地(現・北海道)の北方警備とその為の道路開削に乗り出しました。

寛政10年(1798)に派遣した蝦夷地調査団の報告により、幕府は海岸通行の最大難所である様似冬島・幌満間の様似山道と幌泉(現・えりも)猿留山道の開削を重視し、着工から1年たらずの寛政11年(1799)に完成させました。

わすけじぞう
和助地蔵



様似町指定文化財(昭和44年3月1日)
毎年3月第3日曜日に慰霊祭が開かれています

様似山道開削中、南部(現・東北地方)からやってきた斉藤和助は、山道開削を手伝い、旅人の利便を図り、また地域の雑事にも協力し、その人柄と献身的な姿は地域の人々から絶大な信頼を寄せられました。没後、様似場所請負人・近江屋藤重郎と幌泉場所請負人・福島屋善四郎たちがその遺徳を讃え、「和助地蔵」を建立しました。

さまにさんどうはたごや はらだじゆく
様似山道旅籠屋 原田宿



様似山道
原田宿
の跡地

明治8年(1873)に北海道開拓使が様似山道の旅籠屋の管理人に依頼したのが徳島藩家老福田家(淡路島藩主)家臣団の一人、原田安太郎夫妻でした。明治18年(1885)に旅籠屋を辞して様似市街地に移りましたが、風雪ひどく、熊や山犬の出没、治安も悪った当時の功績は非常に大きいものでした。

現在、原田宿跡地では土台石や石垣、当時使用していた徳利、炉の跡が発見されています。